

研究等成果報告書

研究費の区分	基盤研究費・ <u>学部等研究費</u> ・全学プロジェクト等研究費 種目：学部等研究費・学部等研究旅費
研究課題	異文化交流に関する基礎的研究
学部等・職・氏名	共通教育センター Uwe Richter 教授、佐藤 智子 教授、劉 文静 准教授 伊東栄志郎 准教授
研究成果の概要	<p>当研究は、研究目標として、「制度、文化の違う国や地域との交流を促進するための必要な条件を明らかにする」という研究目標を掲げ、佐藤智子教授、Uwe Richter 教授、劉文静准教授と伊東栄志郎の計4名がそれぞれの専門研究分野で行ったものである。</p> <p>当初の研究目標「制度的に違う国や地域との交流を促進するための必要な条件を明らかにする」ために、それぞれ、以下の分野の研究を行った。</p> <p>(1) 中・韓・日の文化交流の様式 (Uwe Richter)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国、韓国、日本の文化的あるいは宗教的影響関係について実地調査を行った。 <p>(2) 東欧圏のユダヤ文化の変遷 (伊東栄志郎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月のハンガリーの国際ジョイス学会にて東欧のユダヤ人と西側への移民経過において、研究発表後、ダブリン、ウィーンのユダヤ人施設で研修した。 <p>(3) 日中との比較における南部ドイツにおける多様化する農家経営(劉文静)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部ドイツのBaden-Wuttenburg州において、グローバリゼーションに対応しようとする、ワイン農家の経営戦略について実証的調査研究をおこなった。 <p>(4) 姉妹都市交流の変遷 (佐藤智子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県石鳥谷町とラットランド市、及び松尾村とアルテンマクルト町の姉妹都市交流を理念、推進者、交流プログラムの内容などの観点から事例研究した。 <p>* なお、詳細はそれぞれの教員による別添資料参照。</p>
目標の達成状況	<p>上記研究者4名は、かつて所属していた総合政策学部異文化交流論講座における研究成果を踏まえており、上記の研究目標「制度的に違う国や地域との交流を促進するための必要な条件を明らかにする」ため、上記4分野にまたがり、それぞれの地域で研修や資料収集を経て、具体的には以下のような成果があった。</p> <p>(1) 中・韓・日の文化交流の様式(Uwe Richter)：3年後に著書を出すため準備中。上記三国の宗教と政治について詳細な比較分析を行い、関連ブログを作成した。</p> <p>(2) 東欧圏のユダヤ文化の変遷(伊東栄志郎)：学会発表原稿を学術論文用に準備中。ユダヤ民族の特に東側から西側諸国への移民に関し、初期的文献収集が終了した。</p> <p>(3) 日中との比較における南部ドイツにおける多様化する農家経営(劉文静)：学術論文用に準備中。初期的文献検索、訪問調査の目標が達成された。</p> <p>(4) 姉妹都市交流の変遷(佐藤智子)：2種の事例研究により、行政指導の限界を明確にすることができた。『総合政策』第8巻1号に論文を掲載した。</p> <p>* 詳細は別添資料参照のこと。</p>
成果発表等	別添資料参照

注 学会発表論文等の成果発表資料を添付すること。(成果発表資料がない場合は、研究実施レポートを添付すること)